生活保護を漫画で描く

『陽（ひ）のあたる家～生活保護に支えられて～』

〝誤解なくしたい〟の思い

「人ごとではない」と反響

生活保護をテーマにした漫画『陽（ひ）のあたる家～生活保護に支えられて～』（秋田書店）が出版されました。作者は漫画家のさいきまこさん。「不正受給者が多い」「甘えている」「恥ずかしい」など、生活保護への誤解や偏見をなくしたいという思いで、生活保護を受けることになったある家族を主人公に描きました。

夫が病気で失業。妻は家計をやりくりしようとパートを増やしますが過労で倒れます。想像もしていなかった「人生の落とし穴」。家族みんなで生きのびようと最後の命綱、生活保護に手を伸ばしますが―。

家族の葛藤や支える人たち、周りの偏見など生活保護をめぐる問題を、漫画を通して発信しています。

初出の月刊『フォアミセス』連載時、読者から「身につまされた」「人ごとではない」など大きな反響を呼びました。

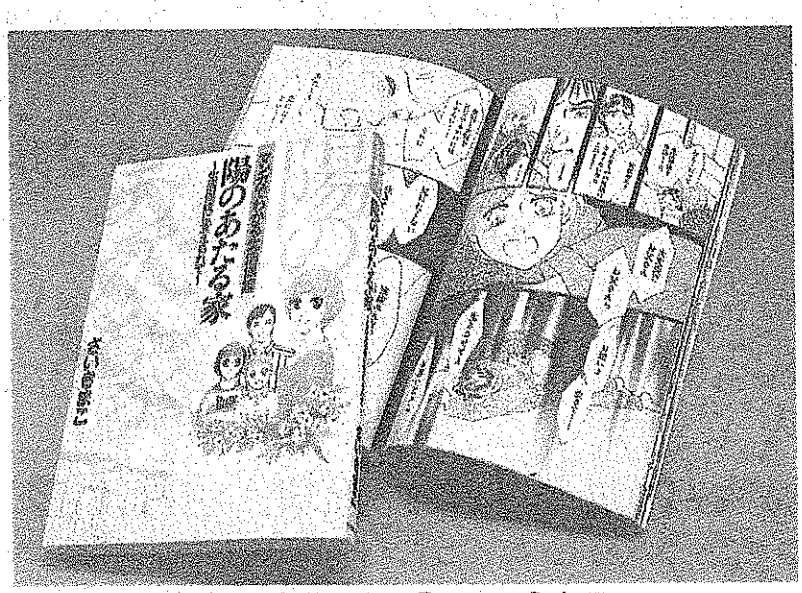
さいきさんは「私自身、自営業で母子家庭の母親です。将来が不安だったときに弁護士の友人が〝足りない部分は生活保護があるんだよ〟と教えてくれました」と語ります。

「最後には生活保護がある」と安心していました。タレントの母親が「不正受給」だったとする報道をきっかけに吹き荒れた生活保護バッシング。「生活保護制度のしくみ、スティグマ＝負の烙印（らくいん）＝、全体の0・4％しかない不正受給などを物語に織り込み、事実を知ってもらえさえすれば誤解は解ける」と筆をとりました。

主人公家族を支援するNPO（民間非営利団体）スタッフのセリフに、さいきさんの思いを込めました。『お金がない人は野垂れ死にしてもしかたがない』っていう世の中がいやだから」―。

さいきさんは「大多数の人が社会保障と自分は関係ないと思っている。自分も生きやすい世の中にするためには、偏見によるバッシングをやめたほうが自分のためになると言いたい。願いは、お金がなくても生きていける世の中になることです」と語りました。

（仁田桃）



さいきまこ作『陽のあたる家』©フォアミセス